SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS
Vol.200　/　2022 .DEC
（月1回発行）

仙台経済同友会と部活動支援に関する協定を締結

左から髙橋仁学長、朴澤泰治理事長、小林英文代表幹事、深松努副代表幹事

仙台大学を設置する朴沢学園と仙台経済同友会は12月1日（木）、仙台市・仙台経済同友会会議室に於いて「部活動支援プロジェクトに係る連携協定」を結びました。

今回の協定は、仙台経済同友会が今年10月から推し進めている「部活動支援プロジェクト」に関して連携するもので、学生は体育系大学である本学で修得した専門知識を活かし、企業等に就職した後も競技指導者として関わることができ、一方、仙台経済同友会は同プロジェクトに欠かせない派遣指導者の人材確保に繋げることを期待するものです。

協定式には、仙台経済同友会から小林英文代表幹事（株式会社七十七銀行・取締役頭取）、深松努副代表幹事（株式会社深松組・社長）、本学園から朴澤泰治理事長、髙橋仁学長が出席しました。

仙台経済同友会の小林英文代表幹事は「それぞれのスポーツ分野に秀でた学生たちに指導してもらうことで、生徒は競技力が向上し、企業にとっても新たな人材が供給されることは、とても悦ばしいこと」と話し、朴澤理事長は「スポーツを専攻領域とする大学として新たな道筋を作っていける」と今回の協定締結に期待しました。

協定締結を受けて、来年の2月には本学を会場としてプロジェクトに賛同する仙台経済同友会の会員企業による1回目の就職イベントを開催する予定です。

〈 目　次 〉

・仙台経済同友会と部活動支援に関する協定を締結	1
・第17回スポーツシンポジウムを開催 ・令和4年度 健康づくり運動サポーター認定証書授与式を挙行 ・第9回仙台大学学術講演会を開催	2
・「スポーツアナリストについて考える2022」スポーツ情報サポート研究会主催トークイベントを開催	
・バドミントン部／岩沼市バドミントンスクール、小椋久美子さんと共演 ・バドミントン部女子・新人戦にて女子シングルス優勝	3
・2022 Jeju cup Intternational Judo Tournament 済州カップ国際柔道大会に出場、女子4階級と女子団体戦で金メダル獲得 ・手応え9位、全日本団体体操／男子チーム気を吐く	4
・第74回日本ハンドボール選手権大会（男子の部）／男子ハンドボール部 ・男子バレーボール部／活動報告	
・準硬式野球部が髙橋学長へ大会等報告 ・佐々木琢磨職員が青森県褒賞、デーリー東北特別賞の受賞を報告 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.56	5

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

第17回スポーツシンポジウムを開催

12月19日（月）18：00～19：30、仙台市青葉区のエルパーク仙台ギャラリーホールを会場に「第17回スポーツシンポジウム」（仙台市・河北新報社・仙台大学の共催）を開催し約90名が参加しました。

今回のシンポジウムは「女性の視点からスポーツの未来を探る」をテーマに、「監督が怒ってはいけない大会」の代表理事でスポーツキャスターの益子直美さん、バレーボール「リガーレ仙台」選手兼監督の佐藤あり紗さん、在仙女子アイスホッケーチーム「レディースラビッツ」コーチの鈴木あゆみさん、「マイナビレディース」企画営業課長の後藤早紀さんの4名をパネリストに、本学の弓田恵里香准教授をコーディネーターに実施しました。

主催者を代表し髙橋仁学長が、対面での開催（昨年はオンライン配信）に協力いただいた皆様に感謝の言葉を述べるとともに、東北地区の大学で初創設する「仙台大学女子硬式野球部」に触れ、シンポジウムの議論を今後の運営等の参考にさせて頂きたいと挨拶しました。スポーツを「する・みる・支える」という観点からパネリストがこれまで経験してきた指導方法や環境を紹介しつつ様々な課題に触れ、スポーツの楽しさの追求、女性スポーツの魅力や今後のスポーツのあり方について、活発な意見交換が行われ、会場からも質問が出て、パネリストと参加者が一緒になってこれからのスポーツの在り方を考えるイベントとなりました。

令和4年度 健康づくり運動サポーター認定証書授与式を挙行

12月15日(木)に健康づくり運動サポーターの認定証書授与式を挙行しました。

今年度は資格認定評価会で認定された初級14名(出席9名)に対して認定証書が授与されました。今回の認定者を含めこれまで延べ650名が本資格を取得してきました。

この資格取得には、講義受講と地域の運動教室での現場実習が必要となります。実際に地域の方々と関わりながら学生はコミュニケーション能力や指導力、ホスピタリティを身に付けます。

資格を取得した学生からは、「養成講座や現場実習で学んだことを今後の研究に活かしたい」「活動に参加して様々な人と関わることができた」「現場実習では運動プログラムはもちろんだが、
場の雰囲気づくりの重要性を学べた」など、感想や今後の抱負を
述べてくれました。

＜健康づくり支援班＞

第9回仙台大学学術講演会を開催

12月7日（水）B300教室で第9回仙台大学学術講演会を開催しました。

今年度は、東京都立大学人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域教授の藤井宣晴先生を講師にお迎えして、「健康の鍵を握る骨格筋」をテーマにご講演をいただきました。

代謝・内分泌を介した全身性制御の分子基盤や骨格筋から分泌される生理活性物質「マイオカイン」の最新の研究から、運動による抗老化まで広くお話をいただきました。

最新の研究に触れる大変刺激的な学術講演会でした。

「スポーツアナリストについて考える2022」スポーツ情報サポート研究会主催トークイベントを開催

12月18日（日）スポーツ情報サポート研究会は、会の知名度向上を目的として、XEBIO ARENA Active Spaceにてスポーツアナリストに着目した高校生向けのトークイベントを開催しました。遠方の方も参加ができるようにハイブリット方式を採用し、YouTubeでのライブ配信も同時並行で行いました。当日は現地参加者29名、オンライン参加者34名と盛況のうちにイベントを終えることができました。

第1部では、石丸出穂准教授が自身の経験談を交えながら、主にバレーボールを題材にスポーツ分析の魅力について語り、スポーツ分析入門者向けの講演を行いました。第2部では普段から部活動でスポーツアナリストとして活躍している学生が登壇し、日々チームを情報戦略面でサポートする上で気を付けていることや、やりがいなど、様々なテーマに沿ってディスカッションを行いました。

イベント終了後に参加者へ依頼したアンケートでは、「現場レベルのもっとコアなところまで話を聞きたい」「仙台大学の卒業生でスポーツアナリストをしている人の話を聞きたい」等、次回開催に向けたご意見を頂戴しました。

【パネルディスカッションに登壇した学生のコメント】
須田翔大（スポーツ情報マスメディア学科4年）
最初は緊張していましたが、楽しくディスカッションをすることができました。まだまだ話したい事がたくさんあるので次回が楽しみです。

亀山優汰（スポーツ情報マスメディア学科3年）
スポーツアナリストとして人前に立つことが初めてだったのですが、自分の意見をしっかり伝えることができたのでいい経験になりました。また、他の人とディスカッションしながら他競技のアナリストについても学ぶことができたので、今後の参考にしていきたいです。

松橋樹（スポーツ情報マスメディア学科3年）
当日は想像していたよりも多くのみなさんにきていただきとても嬉しく思います。私にとっては他競技のスポーツアナリストの活動内容、活動する上で気をつけていることなど普段聞くことができないことを聞くことができ、今後の活動に活かしていきたいと思いました。

企画運営を担当した新助手吉村より
イベントに参加してくださった皆様、ご参加くださりありがとうございました。日頃、各々の部活動でスポーツアナリストとして活躍している学生が、日々の活動を振り返り自分の言葉で伝えてくれました。学生にとっても貴重な学びの場になったと感じております。今後も様々な形で交流の場を作っていけたらと考えておりますので、引き続き研究会の活動を見守っていただけたら幸いです。

スポーツ情報サポート研究会では、スポーツアナリストを志す学生が日々の部活動で実践的な学びを通じて腕を磨いています。今後もSNSやHP等で情報を発信していきます。
＜スポーツ情報サポート研究会＞

バドミントン部／岩沼市バドミントンスクール、小椋久美子さんと共演

12月4日（日）、岩沼市総合体育館にて中学生対象のバドミントンスクールが行われました。北京オリンピック・女子ダブルスベスト8の小椋久美子さんの講習会がメインで、本学バドミントン部もアシスタントコーチという形で参加しました。

中学生たちは小椋さんとのシングルスや本学学生とのダブルスを楽しみました。

本学選手と小椋さんとのエキシビジョンマッチも開催され、中学生たちにとっては貴重な体験の1日となったようです。

本学学生の中には、岩沼でバドミントンを始め同じように講習会にて本学学生に教わったという学生がいます。このような地域の中のサスティナブルな循環として大切にしていきたいと思います。

＜バドミントン部＞

バドミントン部女子・新人戦にて女子シングルス優勝

12月5日～8日、仙台市・宮城野体育館にて東北新人学生バドミントン選手権大会が開催されました。

全国大会へ繋がらない大会ではありますが、1・2年生のみ参加の大会ということで同世代の中での順位関係を見極める重要な大会と言えます。そのような大会において、本学バドミントン部女子が各種目上位入賞を果たしました。

結果は以下の通り

女子シングルス

優勝　齋藤梓（スポーツ栄養1年）

8強　中村彩乃（スポーツ栄養2年）

8強　木村瑞紀（体育2年）

女子ダブルス

3位　相澤栞里/斎藤梓（子ども運動2年/スポーツ栄養1年）

8強　中村彩乃/鎌田美来（スポーツ栄養2年/体育1年）

8強　渡邉莉那/三澤華恋（健康福祉2年/子ども運動1年）

女子団体：3位

メンバー

中村彩乃（スポーツ栄養2年）

木村瑞紀（体育2年）

阿部理子（健康福祉2年）

相澤栞里（子ども運動2年）

齋藤梓（スポーツ栄養1年）

エース齋藤が東北制覇を果たしました。先の秋季リーグ戦においても他校のエース格上級生を倒し、本大会の優勝候補筆頭となっていましたが、その重圧に屈することなく実力を示しました。本学としては4年ぶりの同種目制覇となります。

ダブルスは普段のペアではなく相澤と急造で組みました。準々決勝は逆転勝利、準決勝も同じように粘りましたが、ファイナルゲーム18本で敗退しました。

女子はこの3年間、インカレに出場できていません。来年度はインカレ出場を目標に活動していくことになります。何としても、団体、シングルス、ダブルス全てで出場権を獲得していくことと、全日本学生ミックスダブルス選手権にも出場できるように精進してまいります。

＜バドミントン部＞

2022 Jeju cup Intternational Judo Tournament 済州カップ国際柔道大会に出場、女子4階級と女子団体戦で金メダル獲得

韓国の済州（チェジュ）島において3年ぶりに開催された国際柔道大会に、本学とつながりが深い鄭成淑（チョン・ソンスク）氏のご配慮を受けて、出場をすることができました。

この大会は12月5日から8日の4日間、様々なカテゴリー（小学生からベテランの部）で実施されています。

大学生の部に出場した男子2名と女子6名は、初めて出場する国際大会で、日本と異なるスタイルの外国人選手との対戦に緊張もありましたが、各々が力を出し切り善戦をしました。

その中で、以下の4名が金メダルを獲得しました。
女子48kg級：小池優芽（体育1年生）
女子52kg級：中島幸穂（現代武道2年）
女子57kg級：坂口千桜（スポーツ栄養2年生）
女子70kg級：上野理花（現代武道3年生）
女子団体戦：金メダル

今回の経験をこれからの活動に生かせるよう、さらに精進したいと思います。
＜柔道部＞

手応え9位、全日本団体体操／男子チーム気を吐く

大会終了後、互いの健闘をたたえ合った本学チーム＝サンドーム福井

体操の全日本団体選手権が12月11日（日）、福井県鯖江市内で行われ、本学男子陣は9位にくい込みました。社会人、大学、高校の各カテゴリーで今年上位となった強豪ばかり計15チームが出場。このうち大学勢で5位、全体でも１けた順位であり十分健闘に値します。

大会は6人がエントリーし各種目3人の演技による6種目の合計得点で覇を競います。総合得点で本学は245.328。1位徳洲会クラブとの差は12.934でした。大学勢においては鹿屋体大、順大、日体大、筑波大に次ぐ成績。

種目の中で特筆すべきは跳馬です。本学がマークした44.666は全体で堂々トップ。胸を張れます。けん引したのは今年の全日本インカレで跳馬を制した岩澤将英（体育3年）。高難度の技をこなして着地もピタリ。最高得点15.300をたたき出しました。

チームの演技を見守った鈴木良太監督は「手応えを得た大会だった。所々小さなミスはあったが、各種目で目立ったミスがなかった。特に跳馬は良くて高得点につながってくれた。みんな、自信になったと思うし、これをぜひ次年度につなげてほしい」と期待を寄せました。

岩澤のほか本学の出場メンバーは次の通り。（エントリー順、所属は全て体育学科）
青木龍斗（2年）佐々木郁哉（同）淺山侑大（1年）吉田求（同）蛭町祐太（3年）
＜体操競技部＞

第74回日本ハンドボール選手権大会（男子の部）／男子ハンドボール部

12月7日（水）に山口県周南市で第74回日本ハンドボール選手権大会（男子の部）の1回戦が行われ、本学男子ハンドボール部は、東北地区代表として出場しました。

本学卒業生、琉球コラソンの伊藤峻（真ん中水色ユニフォーム）と男子ハンドボール部員

1回戦の相手は、伊藤峻（R3年度体育学科卒）が所属している、琉球コラソン（日本リーグ所属）でした。試合は、本学が先制点を挙げたものの、相手のアグレッシブなディフェンスに攻めどころを見出せず、前半を9-25で折り返しました。ハーフタイムに修正点を整理し、後半は相手に怯むことなく、攻め続けましたが試合は23-47で敗れました。しかし小池凜（体育3年）が1人で9得点するなど、国内トップリーグのチーム相手に堂々と渡り合いました。

国内最高峰の大会ということもあり、素晴らしい会場や競技運営の中で試合を行うことができ、チームにとって、大きな経験を得ることができました。また来年、この場所に戻ってくることができるように、トレーニングに励みます。

引き続き男子ハンドボール部の活躍にご期待ください。

＜男子ハンドボール部＞

男子バレーボール部／活動報告

○全日本インカレ惜しくも2回戦敗退／男子バレーボール部

バレーボールの大学日本一を決める第75回秩父宮賜杯全日本大学男子選手権大会（全日本インカレ）が11月29日(火)から東京都・武蔵野の森総合スポーツプラザで開催されました。

29日(火)　1回戦　対　専修大学
仙台大学 3（16－25、25－23、23－25、25－19、15－8）2 専修大学

30日(水)　2回戦　対　長崎国際大学
仙台大学 0（21－25、25－27、22－25） 3　長崎国際大学大学

4年生が軸となり、今まで培ってきた実力を発揮し、関東1部6位の強豪である専修大学に競り勝ち、5年ぶりに1回戦を突破しましたが、2回戦で惜しくも敗れました。

○V1所属のジェイテクトSTINGSに惜敗／天皇杯ファイナルラウンド

令和4年度天皇杯・皇后杯全日本選手権大会ファイナルラウンドが12月9日(金)から東京都・武蔵野の森総合 スポーツプラザで開催されました。

本学男子バレーボール部は1回戦でV1リーグに所属するジェイテクトSTINGSと対戦し、リードする場面や競り合う場面も作りましたが、惜しくも敗れました。

結果は以下の通り
9日(金)　1回戦
仙台大学　0（21－25、19－25）2　ジェイテクトSTINGS

今大会が4年生にとって最後の大会でしたが、全力を尽くし、終えることができました。
今シーズンも仙台大学男子バレーボール部を応援していただきありがとうございました。

＜男子バレーボール部＞

準硬式野球部が髙橋学長へ大会等報告

11月28日（月）に準硬式野球部員が学長室を訪れ、髙橋学長に大会報告を行いました。
準硬式野球部は東北地区春季リーグで優勝を果たすとともに、11月19-20日に福岡県で開催された第40回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会では、東北代表として6名の選手を輩出するなど活躍しています。また東北地区秋季リーグでは5位に終わったものの2名がベストナインに輝いております。
髙橋学長は、学生同士が協力し合って部活動の運営を行い、その状況下で結果を出していることに、たいへん感心するとともに、準硬式野球部の今後の更なる活躍を期待し、激励しました。

○学長報告した準硬式野球部員
杉田 瞬人さん（スポーツ栄養3年：主将）
佐藤 拓也 さん（健康福祉3年：東北代表）
大原 健我さん（健康福祉3年：東北代表）
小林丈流さん（体育2年：東北代表）
古川 翔馬さん（体育2年：秋季リーグ戦ベストナイン・東北代表）
佐藤 柊斗さん（健康福祉2年：秋季リーグ戦ベストナイン・東北代表）
齊藤 伊吹さん（健康福祉2年：東北代表）

佐々木琢磨職員が青森県褒賞、デーリー東北特別賞の受賞を報告

12月21日（水）に佐々木琢磨職員（本学OB）が青森県褒章およびデーリー東北特別賞を受賞したことを髙橋仁学長へ報告しました。
佐々木職員は今年5月にブラジルで開催されたデフリンピックの陸上男子100メートルでアジア人初の金メダルを獲得しました。今回の受賞はともにその功績が讃えられての受賞となります。
佐々木職員は「このような賞を頂けたのも、私一人だけではなく、コーチの名取教授や多くの方に支えられたからだと思います。来年は今年以上に活躍できるよう頑張りたい」とさらなる飛躍を誓い、髙橋学長は「陸上日本代表としてだけではなく、青森県の代表としてこれからも頑張ってほしい」と激励しました。

左から髙橋学長、佐々木職員、増子臨時職員（手話通訳者）

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.56

助手　今野　桜

本格的に寒さが厳しくなり、12月に入ってから川平キャンパスでも雪が降る日が続きました。気温が下がり始めた11月～12月にかけて、川平ATルームでは今年度第3回目のスポーツ傷害予防講習会を実施しました。
今回の講習会ではコンディショニングとこれからの時期に気を付けて欲しいことについて話をしました。まず生徒達には今年4月から現在までの振り返りをして、それぞれ良かった点・悪かった点を考えてもらいました。アスリートのコンディションに必要な運動・栄養・休養のバランスがきちんととれていた人もいれば、日々の食事から栄養を充分に摂れていなかった人、身体を休ませるための時間を上手くとれていなかった人など様々でした。今年は4～5月に怪我の発生件数が多く、特に1年生が入学後に怪我をして離脱するケースが多くありました。高校生は年間を通して大会があり「オフシーズン」と言うものはありません。そのため、日々の身体のケアや睡眠、食事等を意識して行うことが、アスリートとして良いコンディションを保つためにはとても重要になってきます。これから更に寒さが増し、体調を崩しやすくなります。この冬の間にしっかり体づくりをして、来年度の高校総体でそれぞれの部活動が良い結果を残せるように、川平ATルームでは引き続きサポートを行っていきたいと思います。

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園（明治12年開設）の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。

なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能力を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科（修士課程）も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみることが好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 （リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください）

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（仙台大学学則別表第一）

■3つのポリシー ①学部 ②大学院
③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科
⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画